

六郷満山は国東半島をめぐる 1 年を掛けての巡礼であった。この巡行を終えた人々は弥勒寺・宇佐神宮複合施設で仕える資格を持つと考えられた。この巡礼の主な宿泊地の一つは両子寺の内部にある聖地である。苦行を行う巡礼者達はこの洞穴で 2, 3 日過ごしたのだった。その間彼らは次へと進む前に仏に対する儀式を行っていた。半島の中心近くに位置し、この地は千年以上ものあいだ精神的な目的地であった。二つの仁王像が宇佐神宮へ通ずる道路沿いの神社を守っている。両子寺の南にある富貴寺は六郷満山の道筋にあるもう一つの宿泊地である。富貴寺の阿弥陀堂は九州全土で最も古い木造建築物である。